

ゆうりんだより

2018.05
Vol.27

愛着の絆の修復

ほだか施設長 梅村 麻美子

乳児院の大切な役割の一つに、「愛着の絆をつくる」があります。「愛着」は、誤解され易い言葉ですが、「愛情」とは異なります。愛着は恐怖や不安を感じた時に、特定の養育者にくっついて安心感を得ようとする心の仕組みで、例えば、幼児が犬に「ワン！」と吠えられて母親にしがみついて安心感を得るようなことです。愛着とは「安全基地」なのです。

幼少期に安定した愛着が形成された人は、「不安になっても大丈夫。」とマイナスイ感情を自分で抱える力がありますし、「誰かが助けてくれる。」と他者に対する信頼感を持つことができます。逆に言えば、形成が不安定だと、「こんなことで!？」と思うほど些細なことでキレたり、パニックに襲われたり、不自信から援助を求めることができずに、非行や自傷行為などの不適切な方法で、利他的な安心感を得ようとしがちになります。

最近では、脳の研究が進み、様々なことが分かってきました。驚いたことに、身体的虐待よりも、父親の母親への面前DVのような罵声や怒声・暴言の方が、子どもの脳に6倍も悪い影響があることが明らかになっています。また、ネグレクトなどの不適切な養育の子どもの脳への影響が最も大きいのは、1歳前後だということも分かっています。もちろん、受胎した時から赤ちゃんは環境の影響を受けています。このような研究結果から乳児院の役割は、「愛着の絆の形成」というよりも、「愛着の絆の修復」ととらえた方が良いのではという考えがでてきます。

ほだかの子どもたちが、無条件かつ一貫して大人から護ってもらえる経験を蓄積して、自分にはそれだけの価値がある、と信じる力を持つことができるようサポートする力量が職員には求められています。ほだかの職員は、このことをしっかり自覚して日々の養育に励んでいます。



どこまでも
羽ばたいてゆけ!!
大きく成長する一年に...



ひかりの一年生!
きれいなお花と一緒に
写真を撮ってもらったよ



みんなでお花見に行ったよ
桜がキレイだったね



今年はとても早く春を感じ、
たくさんおでかけに行きました。
春はお別れの季節だけど、
出会いもいっぱいある季節。
いろんな人との関わりの中で
ぐんぐん成長できるといいな♪



ほだかで誕生日のお祝いをしてもらったよ。
ほだかからゆうりんへお引越しした日のことは
覚えていないけど...たくさんの職員さんに囲まれて
楽しくほだかで過ごしたことが、なんとなく覚えているよ♪





ふれあいセンターおおだか ～ちびっこのつどい～

「リズムあそび」ママのおひざに乗ってバスごっこ



「節分の会」みんなで玉入れ



ママ講座「子どものおやつ作り」



誕生会



新しい1年がスタートしました。3月に「さようなら」したお友だちも、4月から幼稚園、保育園に元気で通っていることでしょう。

4月から新しい利用者さんも増え、静かだった「広場」にも子ども達の元気な声もどってきました。お座りができるようになったお子さんや、はいができたようになったお子さんなど月齢の小さいお子さんの利用が増えました。同じ月齢のお子さんの持つお母さん同士、子育ての話や普段の何気ない会話が広がり穏やかな雰囲気の中、話は絶えません。

お母さんのそばで子ども達も機嫌よく遊んでいます。お母さんがゆったりと過ごされていると、お子さんも安心して遊んでいます。

こんな親子の関係を大切に、私達職員もサポートしていきます。子育てに疲れた時、お話したい時「広場」に遊びに来て下さい。

きょうわ



～はじまりの一步～

春は、出会いと別れの季節。今年のきょうわにも、様々な出会いと別れがありました。

今年の春、自衛隊入隊の夢を叶えたAくんは無事に高校を卒業し、2年近くいたきょうわを巣立って行きました。合わせてこの時期は、関係機関の配置換えの季節でもあり、子どもたちの担当ケースワーカーの異動が多く見られました。職員も3名増え、子どもたちも慌ただしく出会いと別れを経験したところです。

きょうわで、無事に高校を卒業したのは2名。高校入学も2名ありました。きょうわの生活の中で、高校を卒業するということはとても大変なことです。毎日アルバイトをしながらお金を貯めて、生活のルールも守る、それは当たり前前に見えて実はとても大変なこ

と。彼らは、色々な誘惑や襲ってくる孤独に負けず、ひたすら訪れる毎日を3年間耐え続けました。学校を休まずに続ける、バイトを休まずに続ける、どちらも責任のいることで、バイトで疲れている中勉強することもとても辛かったことと思います。そんな3年を耐え抜いた彼らは本当に誇らしいです。卒業後、それぞれの人生の選び方がありますが、自信を持ってこれからを生きていって欲しいと思います。

そして高校入学、アルバイトを始めた子どもたち。入所からずっと前に踏み出せずに、現実から逃げ出していた子ども、時間をかけゆつくりと動き出しました。

大人の中に混じって働く、お金をもらって働くということ、なかなかしんどいことです。そして彼らは頑張って働いても、そのお金を自分の好きなことにだけ使うことは許されません。ホーム費を支払い、貯金をして、風邪を引いたら病院代も支払わなければならぬ。けれど、今辛いことはずっと続くわけじゃなく、いつか終わりが来て自分の人生が生きられるようになること。

職員はそれを日々の中で伝えていき、前に進む手助けができればと思っています。

かえり

昨年4月にスタートしたかえりでは、この春で開所1年を迎えました。

開所当時は、とても静かでしたが、今ではそれが嘘であつたかのように6人の子どもたちと賑やかな日々を送っています。

どの子ども入所当初は遠慮をしたり、一生懸命“いい子でいよう”とする姿がありました。そんな子どもたちも、一緒に過ごす時間を重ね、今では次第に甘えられるようになったかと思えば、今度はわがままを言ってみたり、意地を張ってみたりと、かえり内でも一人一人が様々な姿を見せてくれています。

全員が昨年度編入しているため、どの子どもにとっても今の学校での進級は今春が初めてでした。入園した子、受験生になった子どもたちがソワソワするのはもちろん、やっと慣れたクラスが変わることに不安を覚えていた子どもたちも、みんな新しい環境に飛び込んでいきました。「友人関係が上手くない」「将来はどうしよう」などとそれぞれ

悩みも尽きませんが、「友達が出来たよ」「進路でこんなことを考えてるんだ」などと、毎日少しずつ迷ったり喜んだりを積み重ねています。

私たち職員も、話を聞いたりアドバイスをしたりしながら、子どもたちと共に一喜一憂しています。新しく一歩進んだ子どもたちと、今後も共に悩んで笑って、一歩ずつ歩んでいけたらと思います。



ひなまつりには皆で散らし寿司を作りました。

職員紹介

ゆうりんケアワーカー

安藤 亜実

・今回、産休・育児休暇から復帰されましたね。率直な感想を教えてください。

「復活したんだね!」と子どもたちが声をかけてくれたのが嬉しかったです。心機一転やる気満々ではありますが、運営方法が変わってたり、子どもを取り巻く家庭事情が変わってたりと1年半のブランクは大きいなと痛感しています。

・結婚・出産を機にお仕事を辞める決断をされる職員さんもおられる中、続けようと思ったのはなぜですか?

3歳でゆうりんに入所し、今まで成長を見守ってきた子がいます。その子がゆうりんを巣立つのを見届けたいと思ったのが1番の理由です。養育の連続性の中で、職員の入替わりは大きな課題だと思います。「小さい頃のあなたってこうだったよね」と子どもと語れる存在在りたいです。

・育児とお仕事の両立はどうですか?

正直に言うとうと、とても疲れます! 子どもの寝かしつけで一緒に寝落ち:なんてことも日常茶飯事です。なかなか一息つける時間がないので、リフレッシュ方法を模索中



時短勤務で働かせていただいているので自分の子どもと関わる時間が多く持っており、ありがたいです。

・今後の抱負を教えてください。

母親になった今だからこそ、「入所しているお子さんのお母さんものんな思いをしてきたんだな」と気づく事がたくさんあります。1人の母親として、保護者の思いに寄り添える支援をしたいと思っています。

・今後、同じように産休を考える職員さんもおられると思います。先輩として何かメッセージをお願いします。

部署を超えて、多くの職員さんが本当に支えになってくれています。とてもありがたいですし、育児をしながら仕事を続けていく自信になりました。多くのママ職員さんたちと、仕事の合間に「うちの子ね:」とお話できる日を楽しみにしています。



ほだか心理士

早川 武

・子どもの養育に関わってみてどうですか?

正直、かなり大変です。入社当初は、今まで勉強してきた事が全て通用せず、非常に苦しい思いをしました。先輩職員に「一から教わりながら、何とか子どもに慣れていくことができたが、教育係の先輩職員は大変だったと思います。今では、子どもと関わる事が楽しく、特に怪獣ごっこや鬼ごっこなど身体を使って遊ぶのが大好きです。

しかし、日々の養育に押され、心理士として当初目指していた関わりがなおざりになってしまっている時もあります。この点は、初心を思い出し改善していかなければいけないと感じています。

・お休みの日は何をしていますか?

連休が取れたら、旅行に行っています。先日は大井川鉄道に乗り、温泉に入ってきました。日々の養育の忙しさから離れ、温泉につかっていると、身体中の毛穴から毒が抜けていくのを感じます。また風呂に入るのが好きなので、家の近くの銭湯にも行くようになりました。心の中で「今日も頑張った:」と呟きながら、おじ様方と肩を並べて入浴しています。

・印象に残っているほだかでの行事はありますか?

クリスマス会とフェスティバルが思い出深いです。クリスマス会では2年

連続でマジックをやらせていただきました。皆の前に出て芸をするなんて、今までやった事なかったもので、どうしたら良いかわからず最初は右往左往でしたが、マジックを見て子どもたちが喜んでる姿はとても嬉しかったです。一方でフェスティバルでは、女装をしてステージに立ちました。見た目が怖かったのか、子ども達は怯えてその日は僕に近づいてきませんでした。

・ほだかの「こが好き!」を教えてください。

職員全員が子どものことを第一に考えているところが好きです。養育のことになると、職員同士が激しく火花を散らすことも多々あり、それだけ子どもの事を大切にしているということだと感じています。

・最後に一言どうぞ!

現在養育にがつり入っています。が、今後は心理士として検査や家族支援にも関わって行きたいと考えています。急がず、焦らず、無理をせずモットーに生きていきたいです。



職員の声



初めての卒院生

ゆうりんケアワーカー 久田 春樹

私がゆうりんに勤めてから4年が経ちました。今年の春には、ゆうりんから2名が卒院を迎えました。進学する子、就職する子、期待と不安に胸を膨らませながら新しい環境へと立派に飛び込んでいました。その内の1人が私が担当として受け持った男の子でした。卒院前には『大きくなったね会』で彼らの卒院や、進学進級する子らを皆でお祝いました。その準備の際には、彼のゆうりんでの生活を振り返りながらスライドショーを作成しました。

懐かしい写真を見つめる度にその当時の思い出が頭を巡っていききました。共に過ごしてきた生活の中で、何かトラブルがあるたびにその都度その子自身と向き合い、何度も何度も話し合いを重ねてきました。色々課題を残し不安もある中で迎えた卒院。今まで関わった沢山の職員に見送られてゆうりんを巣立っていきましたが、これでさようならではあ

りません。初めて飛び込んだ社会の中で、多くの問題に直面し奮闘していく彼と今後も繋がりを持ち、関わりを持ち続けていきたいと思っています。

大きくなったね会では、もう1人卒院を迎えた女の子が「ゆうりんのご飯は美味しかった」と嬉しい言葉を残してくれました。色々な人に支えられてここで大きくなった彼女の感謝の言葉だと感じ、胸が熱くなる思いでした。

人生は色々で失敗の繰り返しだと思っています。失敗して強くなつて、一回り大きく成長した彼等に、また会うことがとても楽しみです。



大きくなったね会にて

食事を通して子どもと寄り添う

厨房（栄養士） 野田 枝央理



元気に生活できているのは、現場職員の皆さんの支えはもちろんのこと、日々の食生活も影響していると思います。厨房職員としての今後の課題は、子どもたち一人一人にしっかりと寄り添っていくことだと思います。

例えば、好き嫌いひとつをとっても、素材そのものの味が苦手な子もいれば、気持ちの面から食べたくなーいと思う子もいると思います。そこで、『食べなかったらダメ』とすぐに繋げるのではなく、その子がなぜ苦手なのか、なぜ今食べたいと思わないのかを考えていくことも大切だと感じています。そのためには、現場職員の方々と子どもたちとのコミュニケーションが大事だと思います。

毎週金曜日には、厨房職員がゆうりん各部屋のキッチンで調理を行っています。その際に、子どもたちの様子を目で見て、話を聞いて、今よりももっと子どもたちにとって近い厨房職員として働いていきたいなと思います。



ゆうりんに勤め始めてから8年目になり、昨年は、産休・育休をいただいて子育てに専念していました。久しぶりに職場へ来てみると、そこには一回りも二回りも成長した子どもたちの姿がありました。私にとつてその光景は非常に感慨深く、嬉しいものでした。施設で生活している子どもたちが、こうして明るく

「支援ありがとう」が届きました

平成29年9月1日から平成30年3月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同、敬称略)記載されていない方がございましたらお許しください。

【個人】

山口晃司 松山信 山口信子
星野裕矢 矢野美弥代 井上京子
山口昌弘 岩瀬好美 久保田奈津子
大瀬良美沙紀 上野美津子
川瀬喜世美 吉長敦子 早川知幸
金田和久 小川康一郎 山口保
河原木英子 谷本美枝子 中嶋洋
ジェイムス・ハイブンス 鶴見利雄
山口ミツノ 浜島四郎 久野すみこ
福嶋俊郎 矢守信昭 櫛田夏理子
社本博美 宮田佳子 濱千代美治
堀花織 西川紀子 山本遥香
永谷康信 谷藤沙希 柴橋佳幸
畔柳まどか 泉里紗 星野美弥子
星野雄大 種洋史 福田咲良
上野美紗 寺尾法子 福元進太郎
石井祐治 山口裕 丸根男獅子
毛受小夜子 柳谷真智子 木下福郎
須藤ヨシ子 下澤いづみ 新留好美
水野太久蔵 安田訓明 河西ヒロ子
河西知子 上村優子 鈴木享
山口紘一 小野治正 小坂真樹
蜂須賀正子 長江和子 長江真克
長江譲二 水上脩 西海昭延
伊藤壽重 鈴木弘茂 早川久代
松永正子 梶野智子 町野芳恵
朝倉絹代 近藤八朗 渡邊房子
坂井民子 宗吉美由起 一杉治夫
野津信子 仲野禮子 高橋由行

【団体】

杉浦孝一 武藤美恵子 児玉克己
紙屋祝子 大原誠章 川辺清次
中島光利 松浦重義 石田良江
三浦和人 後藤節子 後藤雪江
谷川修 深谷ゆうか 匿名
中部善意銀行 (株)名古屋食糧
ポツカサツポロフード&ビバレッジ(株)
(株)平成観光 KEN 大高店 東昌寺
(株)いーぼる (有)尾州商会 (株)下栄
中部アニマルセラピー協会
(株)オールドリバー 一步の会
ヒルズウォーク徳重ガーデنز
緑区子連協議会 日本鏡餅組合
名古屋食肉三水会協同組合
ブライト・トウ・ビー 霊友会
全国シヤンメリー協同組合
ライフサポート仁科 木村スポーツ
光ネットワーク協同組合 圓道寺
マックスバリュ左京山店 ははの箱
名糖産業(株) 小島齒科医院
岩塚学区女性会 緑鯨城会
日本ベビーフード協議会 愛大有志
(株)地域計画建築研究所 名市大有志
フジトランスコーポレーション
(有)沖玉エンジニアリング
(株)大野加工流通 アサヒビール(株)
東芝中部支社総務部 日福大有志
大高巳午会 1992 (株)木曽路
(株)オータグラントオータ888 鳴海
愛知県信用農業協同組合連合会
(株)安納スウィーツファーム
オサムファーム MDRT 日本
カーブス大府勤文前 アサヒ飲料(株)
キリンビバレッジ(株)中部圏地区本部
(有)ダスカジャパンクアウテモック
愛知県社会福祉協議会 りんの会
緑区社会福祉協議会 おやじの会

サカエチカマチ(株) 熱田神宮宮庁
こどもハートクラブ 鳴子踊り
(株)チュチュアンナ 日本出版販売(株)
楽天サンタプロジェクト ITO
フィリップモリスジャパン
SHRIMP 中部楽器技術専門学校
(株)オフィスパフォーマンズラボ
ホテルメルパルク名古屋
名古屋フィルハーモニー交響楽団
一般社団法人名友会 テバ製菓(株)
日本ゼネラルフード 丸大産業(株)
中京大遊びグループ 緑消防署
中日新聞販売店 名古屋中法人会
(株)名古屋グランパスエイト (株)結
自動車総連愛知地方協議会
トヨタ部品愛知共販労働組合
名養クラブデイケアンブ実行委員会
名古屋名南ロータリークラブ
なごやかサポートみらい (株)菱和園
名古屋オーシャンズ 富士ダイス(株)
(株)ウィーアップコーポレーション
熱田ロータリーアクト (株)アジャスト
(株)エステイケー (株)エコ・ポリス
サンスイサービス(株) 東亜ライン(株)
名古屋大谷高校1年8組 鳴海教会
緑区更生保護女性会 大高南秋祭り
大高学区民生・児童委員協議会
みどり文化芸術ネットワーク
カトリック聖マリア在俗会
全国児童養護施設総合寄付サイト
名古屋商工会議所 守山商工会
鳴海商工会 有松商工会
愛知県共同募金会義援金助成金
(株)ジェイ・ストーム 炉ばた焼さとの
Grace Truth Church 勝鬨寺
日本児童図書出版協会
なかむら耳鼻科クリニック
ちびっこの集い利用者一同
コミュニティカフェ

COLUMN

子どもたちへの支援でいつも意識していることがあります。それは、目的と根拠です。褒めるときも、叱るときも、また甘えを受けとめるときも。その目的は何か、そしてその根拠は何か。とすると、感情に押し流されたり、場当たりの対応してしまったりと振り返る場面もあります。「何の目的でこの支援を行うのか」「その根拠は何か」と、どこかで冷静に自分自身を統制することが求められます。このことを意識し続けることが、ブレない支援につながり、また子育ての専門性を向上させることにつながると信じています。